

船舶・航空機の入港推移

1 船舶

財務省貿易統計「船舶・航空機統計」によれば、北九州港（門司港・戸畑港の計）の船舶入港隻数の推移は図-32 のとおりである。2023 年は 3,420 隻となり、全国（91,184 隻）の 3.69% を占めている。このうち門司港は 2,148 隻、戸畑港は 1,272 隻であり、九州経済圏内の港では、それぞれ 3 位と 6 位になっている。

入港隻数は 2012 年の 4,954 隻をピークに減少が続いている。近隣の他港でも減少傾向にあるが、北九州港は特に近年の減少幅が大きい（図-33）。

直入港（入港隻数のうち、外国港から国内の他港を経由せずに直接入港する隻数）隻数は 2011 年の 1,612 隻をピークに減少傾向で推移しているが、2023 年は前年から微増の 740 隻となった。2023 年の直入港の比率は 21.6% であり、これは博多港、大分港、徳山下松港など近隣港の同値と比較して低い（図-34）。

九州経済圏の入港隻数上位港（2023 年）

順位	港	入港隻数
1	博多港	2,906
2	下関港	2,255
3	門司港	2,148
4	大分港	1,793
5	徳山港	1,403
6	戸畑港	1,272
7	志布志港	647
8	岩国港	583
9	苅田港	514
10	伊万里港	481

北九州港
3,420

図-32 船舶入港隻数の推移（北九州港）

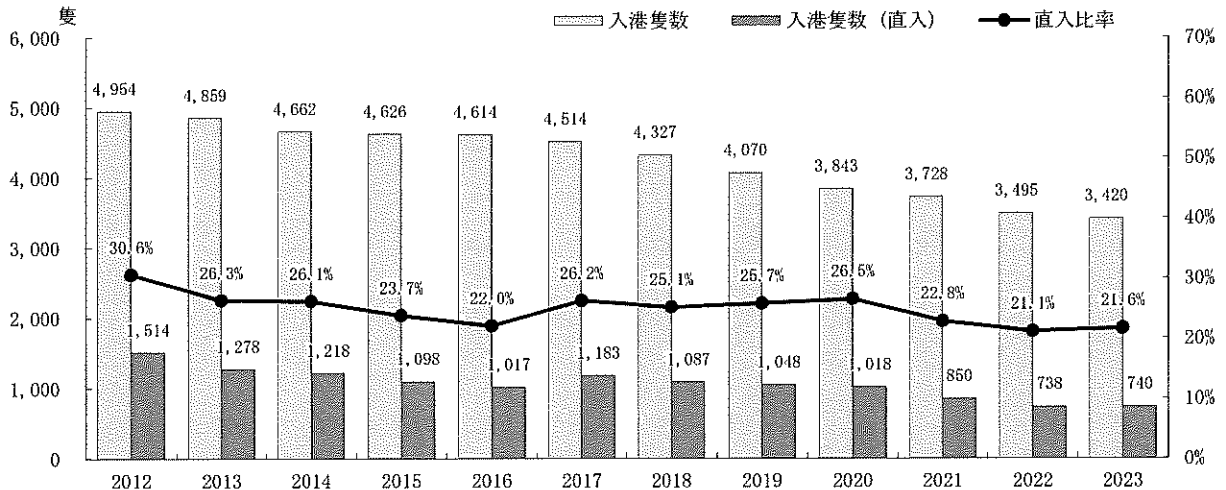


図-33 船舶入港隻数（近隣港との比較）

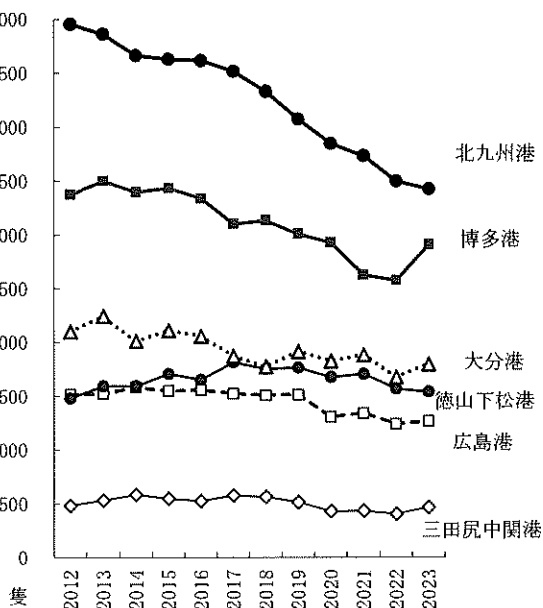
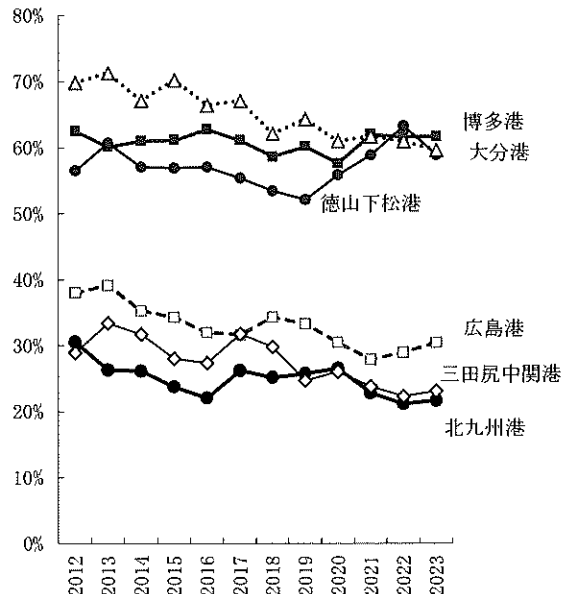


図-34 直入港比率（近隣港との比較）



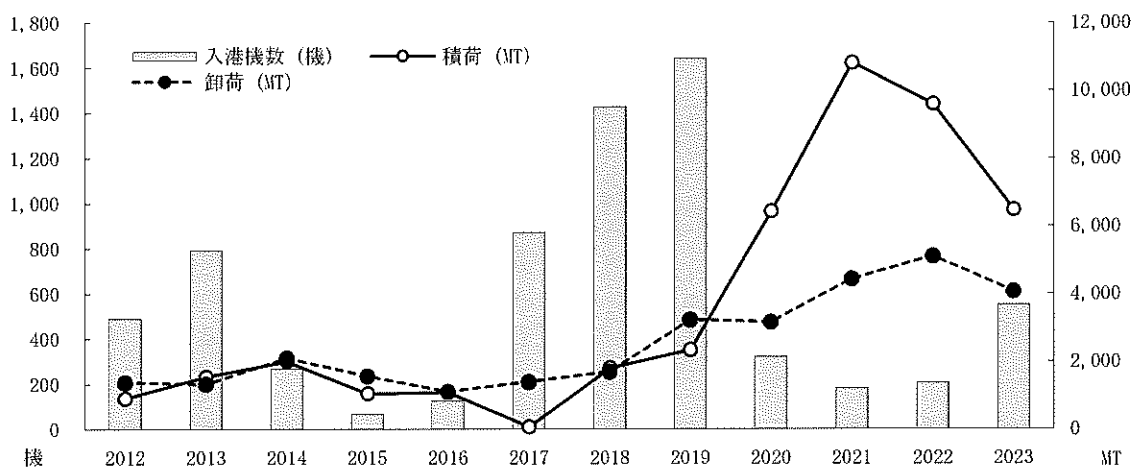
2 航空機

北九州空港の航空機入港機数は、インバウンド需要による韓国路線の増加を背景に、2016～2019年にかけて大きく増加してきた。しかし、新型コロナウイルス感染症流行により国際旅客便の多くが運休となったことで同数は大きく落ち込み、2020、2021年はそれぞれ前年比80.5%、43.4%減となった。しかし、2022年10月に出入国条件が緩和されたことを受け、同年は前年比13.3%増の205機と上向きに転じた。その後、2023年5月の新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴いさらなる増加が進み、同年は同169.3%増の552機となった。

北九州空港の積荷は2023年で前年比32.5%減、卸荷は同20.3%減であった。コロナ禍の巣ごもり需要などを背景に北九州空港では2021年に積荷が過去最高になるなど同年までは上昇傾向が続いていたが、2022年以降は2年連続の減少となった。2024年は熊本県菊陽市でJASM第1工場が稼働開始するなど、半導体デバイスに関連する輸出入量の増加が見込まれる。これらの輸送は航空機を用いることが多く、北九州空港においても積荷、卸荷の増加が期待される。

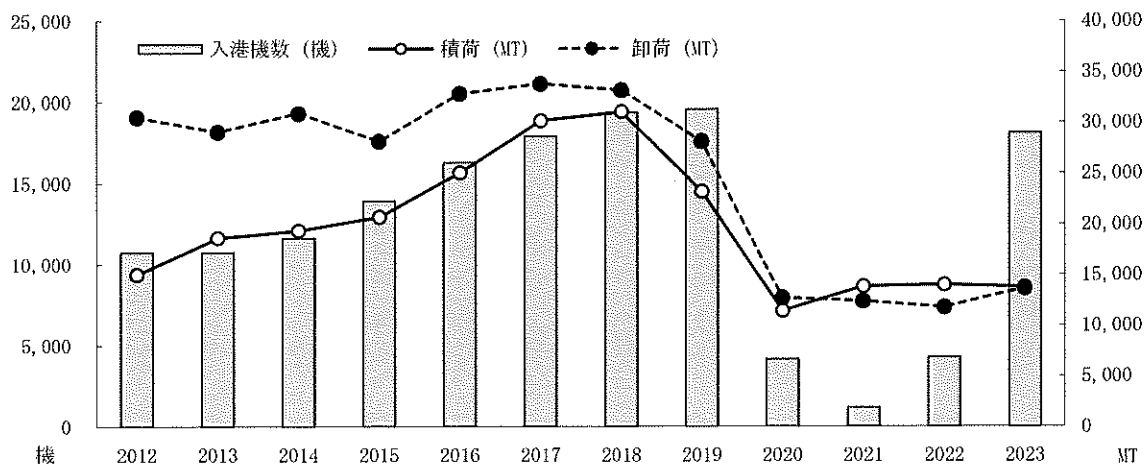
近隣の福岡空港では、2023年の入港機数は前年比323.7%増の18,094機となった。積卸量について、積荷は同1.6%減、卸荷は同16.2%増であった。

図-35 航空機入港機数・積卸量の推移（北九州空港）



入港機数 (機)	491	792	269	67	127	871	1,427	1,642	320	181	205	552
積荷 (MT)	918	1,544	1,995	1,047	1,084	67	1,808	2,338	6,431	10,819	9,597	6,479
卸荷 (MT)	1,374	1,322	2,090	1,558	1,100	1,391	1,689	3,221	3,153	4,422	5,101	4,061

図-36 航空機入港機数・積卸量の推移（福岡空港）

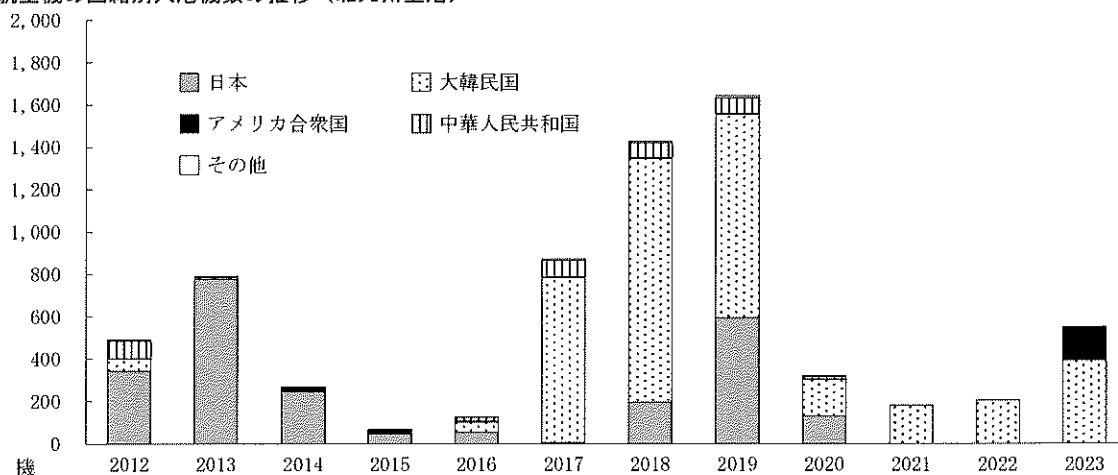


入港機数 (機)	10,751	10,746	11,635	13,924	16,289	17,915	19,352	19,549	4,150	1,174	4,270	18,094
積荷 (MT)	15,013	18,602	19,324	20,666	25,027	30,143	31,024	23,186	11,423	13,816	13,984	13,760
卸荷 (MT)	30,484	29,019	30,835	28,100	32,791	33,759	33,125	28,081	12,667	12,316	11,729	13,633

北九州空港における入港機の国籍内訳は、年により大きく変動してきた（図-37）。2020年までは日本国籍機が比較的多く、福岡空港を上回っていたが、2021年は0機となり、全ての入港機が外国籍であった。2022年まで外国籍機のほとんどが韓国籍機であり、その他はわずかであった。韓国籍機は、2019年は年央からの日韓関係悪化により、2020年は新型コロナウイルス感染症流行により減少した。その後、2023年まで3年連続で増加したものの、最も入港数が多かった2018年との比では依然、65.9%減と低位である。また、2023年は米国大手航空貨物運送会社UPSの北九州空港路線の就航に伴い、アメリカ合衆国籍機が全増の160機となった。

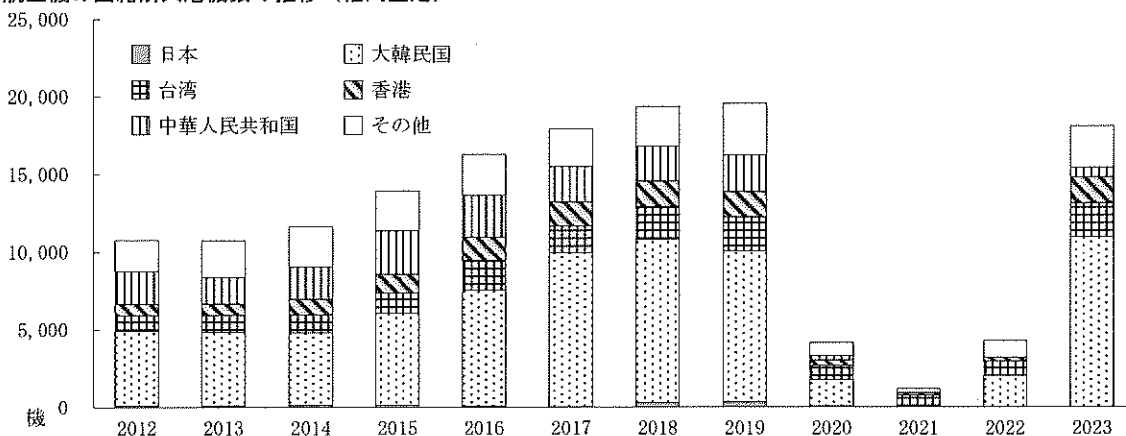
近隣の福岡空港でも韓国便を中心に便数の回復が見られ、2023年の韓国発の入港機は10,950便と前年比5.39倍であり、2018年比でも4.1%増とコロナ禍前と同等の水準となっている。

図-37 航空機の国籍別入港機数の推移（北九州空港）



	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
その他	5	5	1	1	2	5	6	8	2	2	0	0
中華人民共和国	85	0	0	0	18	81	74	78	15	0	0	0
アメリカ合衆国	1	3	22	18	6	3	3	1	2	0	0	160
大韓民国	56	7	0	0	47	776	1,149	961	171	179	205	392
日本	344	777	246	48	54	6	195	594	130	0	0	0

図-38 航空機の国籍別入港機数の推移（福岡空港）



	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
その他	2,006	2,385	2,598	2,561	2,646	2,437	2,551	3,328	835	256	1,053	2,669
中華人民共和国	2,088	1,685	2,060	2,795	2,686	2,289	2,254	2,344	276	0	0	632
香港	733	729	992	1,182	1,498	1,528	1,624	1,637	378	140	264	1,676
台湾	1,002	1,086	1,171	1,335	1,918	1,724	2,109	2,169	894	705	922	2,166
大韓民国	4,810	4,754	4,701	5,926	7,463	9,917	10,517	9,729	1,704	73	2,030	10,950
日本	112	107	113	125	78	20	297	342	63	0	1	1